

リトルリーグ内規（2024年）

序

この内規は、リトルリーグ公認規定、競技規則、トーナメント規則それぞれ適用上の日本リトルリーグ野球協会の統一解釈を収録したもので、上記規則と同等の効力を持つものである。

なお、この内規は、2023年のルールブックに基づいたものであり、今後ルール改正があれば、適用上の解釈にも変更が加えられることがあります。

2024年1月

公益財団法人日本リトルリーグ野球協会

1. チーム（29頁 規定Ⅲ(a)）

後段の「各チームの選手数は10人以上、15人以下でなければならない。」を「各チームの選手数は9人以上でなければならない。」と改める。

文末の「個々の部門に所属するチームの登録書上の選手の数は、2人以上違ってはならない。」は適用しない。

2. 全員出場義務規定（36頁 規定Ⅳ選手(i)）

トーナメント競技規則9. 全員出場義務に置き換えて各部門のレギュラーシーズン試合に適用する。（全選手連続打順制）

2. ティーボールのコーチ人数（51頁：1.00 82頁：3.17）

ティーボール野球部門（5頁）「(前略) 試合のルールは教える内容に合わせて変更してもかまわない。」に基づき4名以内とする。

3. 石灰（59頁：1.04 競技場）

石灰を使用しても良い。

4. 投手の手袋（64頁：1.15(b)）

「(前略) 投手は利き腕ではない方の手にグラブの下にバッティンググローブを着用することができる。」は適用しない。

5. ファウルボール（71頁：用語の定義）

注2：ティーボールの15フィート（4.57m）を7mとする。

6. ファウルチップ（71頁：2.00 用語の定義）

「リバウンドした打球は、」以降を次のように改める。

チップしたボールが、最初に捕手の身体または用具に触れて、はね返ったものを捕手が地上に落ちる前に捕球した場合、ストライクであり、第3ストライクにあたる時は、打者はアウトである。

7. 5得点で攻守交代（73頁：2.00 用語の定義 INNING 93頁：5.07）

マイナー部門の5得点を記録した時点での攻守交代は適用しない。

8. ストライクゾーン（76頁：2.00 用語の定義）

ストライクゾーンの上限に関してだけ、ボールの全部が脇の下ラインより下方を通過したものとす。

9. コーティシーランナー（80頁：3.04 116頁7.14(b) 144頁トーナメント規則3.d.）

文末の「最後にアウトになった打者」を「投手と捕手を除く打順の遠い選手」と改める。

10. 投手の義務 (80 頁 : 3.05)

3.05 に次を追加する。

すでに試合に出場している投手がイニングの初めに準備投球のために投手板を踏んでしまえば、その投手は、第1打者がアウトになるかあるいは一塁に達するまで、投球する義務がある。ただし、その打者に代打者が出た場合、またはその投手が負傷または病気のために、投球が不可能になったと球審が認めた場合を除く。

11. 提訴試合 (91 頁 : 4.19)

提訴試合は認めない。

12. 飛球を捕球後 (95 頁 : 5.10 (f))

次の下線部は適用しない。

野手が飛球を捕らえた後で、スタンド内に倒れ込んだり、競技場内に張られたロープを超えて観衆内に倒れ込んだり、またはその他のボールデッド地域に倒れ込んだ場合。打者に関しては7.04(b)項の規定が適用される。野手が捕球した後にボールデッド地域に足を踏み入れたら、ボールデッドとなる。

13. ヘッドスライディング

(108 頁 : 7.08 (a) (4)、166 頁 : 付録B リトルリーグのための安全規約)

ティーボール部門は帰塁の場合もアウトとする。

14. セットポジション (119 頁 : 8.01(b)注)

次のように改める。(下線部および末尾に下記を追加)

投手は完全に静止する必要はない。(塁に走者がいるとき、インターミディエット/ジュニア/シニアリーグの場合は完全に停止しなければならない。)

インターミディエット/ジュニア/シニアリーグの場合は、塁に走者がいるときに、投手が投手板に軸足を平行に触れ、なおかつ自由な足を投手板の前方に置いた場合には、この投手はセットポジションで投球するものとみなされる。

15. 監督またはコーチのマウンドに行ける回数

(123 頁 : 規則 8.06 (a) (b)、148 頁 : トーナメント規則 7)

マイナー部門も1イニング1回また1試合に2回とする。(メジャー部門と同様)

16. 審判員 (133 頁)

「(前略) リーグ付きの審判員は試合に参加させてはならない。」は適用しない。

17. 選手の適格性 (135 頁)

8試合参加に特別試合を含める場合は、1打席完了(打者走者としての義務を含む)を条件とする。

18. トーナメントチームの練習 (139 頁)

「トーナメントチームによる適性試験や練習は、5月15日以前に開始してはならない。」と「トーナメントチームによる特別試合は、6月1日まで開催してはならない。」は適用しない。

19. 捕手用マスク (2020年2月15日通知)

B F J アマチュア野球規則委員会通知の「捕手用マスク S G 基準義務化」は、適用外とする。

20. レギュラーシーズン試合登録人数

14名以内とする。

以上